

「リーダー」を育む6か年デザイン

FILE 3

東京都・私立渋谷教育学園渋谷中学校

「自調自考」の精神を備えた

グローバルリーダーを育てる

学校行事ごとの振り返りを通じて
自分を知り、思考を深める

東京都・私立渋谷教育学園渋谷中学高校は、21世紀の国際社会で活躍できる人材の育成に向け、「自調自考」の力を伸ばす「国際人としての資質を養う」「高い倫理感を育てる」の3つの教育目標を掲げ、教育活動を行っている。「自調自考」とは、「自らの手で調べ、自らの頭で考える」ことだ。そうした力を育成するために、全教育活動で生徒が「考える」ことを大切にしている。その理由を高際伊都子副校長は、次のように話す。

「グローバル社会において課題を解決するためには、当事者意識を強く持ち、周囲の人の状況を理解しながらコミュニケーションを取り、解決策を自ら生み出すことが必要でしょう。そうした力を育むためには、思考する機能をつかさどる脳の『動機づけを行う』『知識を記憶する』『感情を理解する』『言語を操る』『物事をデザインする』といった5つの機能を有機的につないでいくこと

が重要だと考えています」

それらの機能には人によって得意・不得意があり、すべてが完璧に兼ね備わっている必要はないと、高際副校長は強調する。

「二人ひとりに個性があるので、自分はどうなる人間なのか、自己認識をすることが大切です。そこで本校では、生徒が自分を知るために、学期や学校行事ごとの『振り返り』を6年間継続して行っています」（写真1）
クラスによって手法は異なるが、各自で

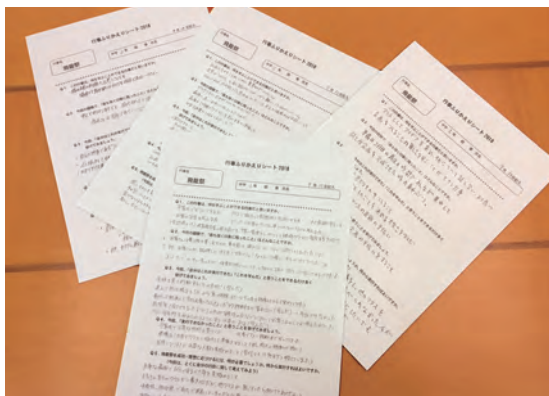


写真1 校外研修や学園祭などの学校行事後に行う振り返りシート。質問は、「この行事は、何を学ぶことができる行事だと思いますか」「今回の経験で、『最も強く印象に残ったこと』はどんなことですか」など5つだ。



東京都・私立渋谷教育学園渋谷中学校
副校長
高際伊都子 たかぎわ・いつこ
教職歴29年。中学開校時より現職。

- ◎設立 1924（大正13）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約2000人
- ◎教育目標 「自調自考」の力を伸ばす「国際人としての資質を養う」「高い倫理感を育てる」
- ◎2018年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東京大、京大などに97人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ470人が合格。
- ◎URL <https://www.shibushu.jp/>

書いたものをグループで共有して、仲間との意見交換を行う。そのプロセスを6年間繰り返し、自分の考えを深める力を育成している。

社会課題の探究活動を行い、視野を広げる

生徒が学外で「自調自考」を実践する場も数多く設けている。その中心となるのが、中学1年生～高校2年生で実施している校外研修だ。主体的に考える力を育成するために、校外研修は現地集合で、見学地でのスケジュールはグループごとに計画する。中学生は、学内の仲間との探究活動が中心だが、高校生になると社会課題の探究活動も行う。例えば、高校1年生の広島研修「Hiroshima Project」は、SGH（*）の中心的な活動で、国語科・社会科・英語科な

* 文部科学省のスーパーグローバルハイスクール。

次世代リーダーの育成に向け、変革を進める私立中高一貫校を取り上げ、
特色ある取り組みを紹介する本シリーズ。

2回目の今回は、「自調自考」を教育目標の中心に据え、授業や学校行事を通して
生徒に考える力を育成している東京都・私立渋谷教育学園渋谷中学高校を紹介する。

どによる教科横断型の探究活動だ。国内外の高校生と話し合いの場を持ち、「人間の安全保障」について考えを深める。

「毎年、SGH指定校の広島女学院中学高校の生徒と平和教育について話し合います。本校の生徒は平和を実現するための方法面に目が向きがちでしたが、被爆地にある広島女学院の生徒と交流することで、当事者意識の差を感じるようです。都会で育った本校の生徒たちは地域の課題を感じることは少なく、当事者意識を持ちにくいと感じています。そうした異なる背景を持つ人たちとの交流を通じて、新たな価値観を学び、考えを深めてくれることを期待しています」
(高際副校長)

さらに、2018年7月には、新たな挑

写真2 「世界高校生水会議」のボランティアは希望者制にし、英語が得意ならツアーガイド、パソコンが得意ならPCサポート、写真が得意なら撮影係など、各自、自分の得意や強みを生かせる分野で協力した。準備は、1年半前から始めた。

戦を行った。同校と姉妹校の渋谷教育学園幕張中学校・高校とともに、世界各国の高校生が水資源を巡る問題について議論する国際会議「世界高校生水会議 Water is Life 2018」を主催した。同会議には、世界18か国から27校の高校が集まり、専門家による基調講演、パネルディスカッション、研究発表などが実施された。同校からは研究発表を行う代表生徒6人が参加するとともに、200人の生徒がボランティアとして会議の運営にかかわった(写真2)。

「今回で3回目の開催になりますが、生徒主体で会議の運営を行ったのは、本学園が初めてです。当初はほかの参加国から心配されましたが、終了後には生徒の組織力が高く評価されました。生徒たちは、世界の仲間と交流することで、自分たちに足りない部分を実感するとともに、知識やプレゼンテーション力など優れていた点も実感したようです。そのような経験を通して、『英語力を高めたい』『専門分野を深めたい』と、学習意欲をより高めた生徒も多かったです」
(高際副校長)

6年間かけて主体的に 進路実現できる力を育む

自分を知るために仲間や社会とつながることで視野を広げ、考える力を鍛える。そうした教育活動の集大成となっているのが、

高校1年生から2年間かけて取り組む「自調自考論文」だ。生徒一人ひとりが自由に課題を設定し、これまで学んだ知識を自分なりに深化させ、約1万字の論文にまとめると。その過程には中間発表会を設け、他の生徒から刺激を受けたり、卒業生からのアドバイスをもらったりし、論文を磨く。

6年間、自分で考え抜く経験を積み重ねることで、生徒たちは主体的に進路実現する力を身につけ、それは結果的に高い進路実績に結びついていくという。今後の課題を高際副校長は次のように話す。

「今後より強化したいのは、クリエイティブなシンキングです。技術革新により、より速く、より広く情報が伝わる中で、物事を正確に判断できる力が重要だからです。その力を磨く鍵となるのが、ITスキルと語学力でしょう。例えば、道徳でSNSに関するメディアリテラシーを学ぶ機会を設けるなど、授業改革を行っています。また、生徒の進路実現をサポートするために、担任が生徒一人ひとりと向き合う時間をより充実させたいと思っています。ただ、担任業務が負担にならないよう、現在はアナログで行っている『振り返り』もITを活用する方向で検討しています。加えて、教員同士も連携し、担任以外でも適切な面談・声かけができるよう、面談力の向上を目指していく予定です」